

「新しい東北」官民連携推進協議会
令和2年度 福島県意見交換会（第3回） 議事概要

令和3年2月5日

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日時】 令和3年2月5日（金）14:00～16:00

【場所】 復興庁 福島復興局 5階 特別会議室 / 復興庁本庁 会議室

※上記2つの会議室に分かれ、テレビ会議を実施

【出席者】

<副代表団体>（順不同）

株式会社東邦銀行、福島県、国立大学法人福島大学、一般社団法人ふくしま連携復興センター、復興庁総合政策班、復興庁福島復興局

<オブザーバー>

公益財団法人福島県観光物産交流協会

<事務局>

PwC コンサルティング合同会社

【議事概要】

1 開会

1) 開会の挨拶

東日本大震災から10年の節目を迎えるにあたり、今後、これまでの復興の取組で蓄積してきたノウハウを、被災地内外に普及、展開していくことが求められている。このような背景を踏まえ、本年度におけるこの協議会の取組の振り返りと、次年度に向けた議論のため、忌憚のないご意見をいただけるよう、復興庁より挨拶した。

2 各団体の取組紹介

各参加団体より、取組紹介資料（資料2-1以降）をもとに取組を紹介した。

3 「実践の場」開催報告企画詳細に関する説明

事務局より、事務局提出資料（資料1）をもとに、主に以下の点を説明した。

- 実践の場の概要
- 実践の場の開催結果

（傍聴者の特徴、各分科会のアウトプット、満足度、目標達成度、考えたこと・学んだこと）

4 次年度の協議会・意見交換会の説明

復興庁本庁より、事務局提出資料（資料1）をもとに、現時点における次年度の事業概要と協議会の方向性について説明した。

5 意見交換

1) 実践の場の良かった点や改善点

震災から 10 年の節目において、目標のうち「内省・言語化のための有効な場にする事」、「知見・技能や刺激を得るのに有効な場にする事」を一定程度達成できたが、開催形式や意見交換のテーマ設定・数については、今後検討が必要な点があった。また、若い世代への情報発信や、発信する場づくりの重要性についての意見が多く挙がった。

<主なご意見>

- ・ 新型コロナウイルスの感染が拡大している中でも、実践の場を現地で開催し、熱気を感じながら登壇者のプレゼンを聞くことができたため、素晴らしい取組だったと思う。一方で、多くの若い世代に参加してもらうためには、オンラインを活用して会場を複数に分けて開催する方法もあっても良かったのではないかと。例えば、大学や高校にサテライト会場を設けても良いと思う。
- ・ 全体的に素晴らしい実践の場だったと思う。3 テーマの意見交換を見たが、それぞれの参加者が熱意を持って話しており感銘を受けた。参加者の人選も素晴らしかったと思う。一方で、意見交換のテーマ分けは、地域づくりとコミュニティ形成の区別がつきにくかった問題があったと思う。また、うまく話を進めるために、ファシリテーターの話聞きだす力が大きく影響していたと思うため、来年度も同じ形式で開催する場合はファシリテーターが重要になると思う。また、参加者から「意見交換の人数が多かったため、人数を減らすことで深い議論ができたのではないかと」という意見があった。
- ・ 意見交換のテーマ設定とプレゼン登壇者の人選が良かったと思う。登壇者は、震災からの 10 年を引っ張ってきた方々のため、プレゼン内容は視聴者に刺さる部分が多かった。一方で、意見交換のテーマは 3 つではなく、1 つにまとめてみても良かったのではないかと。若い世代を中心に多くの方に参加してもらい、直接話を聞いてもらうことが大事だと思うため、どのように声をかけていくかを今後考えていく必要がある。
- ・ 登壇者は活躍している方々であり、素晴らしいプレゼンだったため、自分自身にとってもいろいろと考える良いきっかけとなった。協議会として今後もこのような機会を継続することが大事であるため、若い世代に見てもらうための方法を検討することが課題だと思う。今回は平日開催だったため、若い世代に見てもらうためには開催日時の見直しが必要と思う。
- ・ 震災から 10 年活躍してきた方々の話を聞けたので、参加できて良かった。会場で登壇者に会い、目の前で話を聞くことは、臨場感があり有意義と感じたため、次年度も現地開催できればと思う。意見交換は 3 つのテーマに分けたことで深い議論ができたと思うが、参加人数を絞りテーマを 1 つにしても良かったと思う。若い世代が話を聞いて、自分が福島を引っ張っていくんだという気持ちになってもらうためにも、若い世代が興味を持って参加できるように教育現場にアプローチしていければ良いと思う。

2) 実践の場のアウトプットの活用方法

実践の場のアウトプットの活用に向けて、外との連携の重要性や、インターネットを活用した

情報発信とコンテンツを充実させていく必要性について意見が寄せられた。また、若い世代への情報発信のため、教育機関と連携していく案が挙げられた。

<主なご意見>

- ・ アウトプットをノウハウとして普及展開することが理想であるが、ノウハウの活用として考えるのが難しいようであれば、実践の場に参加して得られたことや、何らか活用できる要素があるかを考えていただきたい。
- ・ コミュニティ形成では、いろいろな支援団体において人材や資金が不足しており、自団体でできることに絞って活動していくしかないという話がでていた。また、それぞれの団体に得意分野・不得意分野があるため、連携していくことが大事という意見があり、外に対して、一緒にやろうと呼びかけていくことが必要になってくると思った。
- ・ 協議会の中での横のつながりが不足しているのではないかと感じる。例えば、ふくしま連復が民間企業とも連携できるように、橋渡し役として協議会が機能すると有難いと感じる。
- ・ 実践の場の参加者はパワーと熱意を持っており、震災からの10年を象徴する素晴らしい活動をしている方々であったため、次の10年に向けてこの熱意を多くの方に伝えていくことが大事だと思う。特に若い世代に伝えていくことが重要であり、課題でもあるため、学生であれば授業、企業であれば商工会と連携していく方法があるのではないかと感じる。また、福島県内にいろいろな協議会が数多くあるため、協議会同士での連携も有効と思う。
- ・ 若者の最近の行動パターンを見ると、活字やテレビをほとんど見ておらず、インターネットを見ていることが多い。そのため、インターネットの活用も考えることが求められると思う。また、幅広い世代に伝えていくために、コンテンツを増やしていくことが必要になるため、活字でまとめたパンフレット等を作成することも良いと思う。福島県内の各大学に復興に関わるセクションがあり、年2回、意見交換会や情報交換をしているため、そのような場を取り込んでいくことが若い世代に伝えるには有効だと思う。地域課題解決に関する教育をしている高校もあるため、地域に対して強い思いを持っている高校生を取り込んでいくこともできるのではないかと感じる。
- ・ 地域の様々な課題をテーマにしている先生はいるため、復興含め地域課題に取り組もうとしている大学研究室などを広く取り込むことができれば良いと思う。
- ・ 福島県観光物産交流協会では、ホムブツリズムを学生向けや企業研修用に販売しているため、それと同じように協議会で旅行ツアーのパッケージを作り、実践の場参加者を訪れるのも面白いのではないかと感じる。
- ・ 今回の実践の場を契機に新たな事業や連携のきっかけができたのだとすれば、それも非常に重要な成果活用の視点だと考える。
- ・ プレゼンの登壇者は、楽しんで活動をしているように感じる。楽しむことで活動を継続させることができることをノウハウとして蓄積できれば良いと思う。
- ・ 地域づくりに熱心な方は多くいるが、その方々が固定化されているため、どのように新しい方に横展開していくかを日々悩んでいる。実践の場の開催に向けて、若い世代に対して、どのように見せる場を準備していくか検討していくことが大事と思う。

- ・ 本日の意見交換の内容を通じて、ノウハウを活用する場はいろいろとあると感じたが、その場で活用するコンテンツをどのように作っていくかが、今後難しい課題だと思う。
- ・ 次年度から福島県の 12 市町村において、移住・定住を大きな柱として取り組んでいくが、今回の実践の場の内容は「どのように他地域から来てもらうか」という話にリンクするものだと考える。そのため移住・定住促進に取り組んでいる自治体にとって、今回の実践の場の内容は良い情報になるため、実践の場のアウトプットを活用先は多くあると思う。

3) 次年度における意見交換会・実践の場のイメージ

若い世代が地域への愛着を持つために地元企業を知ることの重要性が示され、次年度に向けて、教育機関に連携を呼びかける具体案が複数挙がった。

<主なご意見>

- ・ 地域を象徴する活動だけではなく、地域で働いている・暮らしている一般の方や、東京にいる方にも関わってもらうことが、今後の復興の中でポイントになってくると思う。そのために、若い世代が地元の企業を知ることが大事だ。その根拠として、地元地域へ愛着があるか・ないかと、地域の企業をよく知っているか・全く知らないかという観点で分析した際、地域の企業をよく知っている方は愛着度が約 80%であり、知らない方は 50%未満というデータがあった。これは教育委員会の教育長から提示いただいたデータである。そのため、地域の企業を知ってもらうことが大事であり、次年度そのようなテーマを掘り下げていければ良いと思う。また、地域への愛着が高いと、Uターンにもつながるデータがある。具体的には、地域企業をよく知っている方の 60%が Uターンをしており、全く知らない方は 32%であった。
- ・ 意見交換会や実践の場で、フィールドワークやワークショップのようなものがあれば、もっと議論が活発化するのではないかと感じた。若い世代をどのように取り込んでいくかについては、フィールドワークの内容を学生と一緒に企画することもできれば良いと思う。
- ・ 2019 年度の宮城県実践の場では、地域の特産品である牡蠣と観光をテーマにしたワークショップを実施した。今年度は実施できなかったが、特定のテーマのワークショップをその後フォローアップ するような取組をしたいという意見もあった。
- ・ 高校では総合的な学習や課題学習の授業があり、その中のテーマの一つに復興を設定している学校がある。その授業で実践の場の様子を生徒に見てもらえないかと呼びかければ、興味を持つ学校は多いと思う。ただし通信環境の問題があるため、興味を持った高校に対しては通信環境のサポートが必要になると思う。学校をサテライト会場とし、活動者の今までの経験の話と、高校生の話がかみ合った形で議論できる場となれば、若い世代を引き込んでいくことはできると思う。実践の場の趣旨を明確にし、伝えられれば、賛同する学校は出てくると思う。
- ・ 震災の被害やできごとについて、風化を防ぎ、伝承していくことも福島県にとって大事なテーマだ。協議会として、今後そのようなテーマも掲げて話し合っていければと思う。また、開催形式については一ヶ所での開催や複数会場での開催の案が出たため、多くの方が聞き漏

らしのない方法を皆さんと検討していきたいと思う。

- ・ 本日の意見交換内容を踏まえ、若い世代を巻き込むことをベースに、次年度も議論が進んでいくのではないかと感じた。いろいろな視点があると思うが、福島県においては、地域を知ってもらうことと、風化を防ぎ伝承していくことが大事な視点の一つとしてあると思う。次年度に向けて有効な意見をいただいたので、これをベースに取り組んでいきたいと思う。

6 閉会

本年度の意見交換会は今回で最後の開催となるが、次年度も引き続きご協力をお願いしたい。

以上